

雪の脊振山

1月、背振山に雪が降りました。

村にも雪が降りました。

そして、高く登るにつれて、どんどん雪が深くなっていきます。

ブナの林も一面の雪です。

林の中は、しんと静まり返って、時折木々の間を吹き抜ける風の音だけが聞こえてきます。

雪の深さはおよそ10センチ。雪を踏むと、いい音がします。

ブナの林の下、ブチサンショウウオがすんでいる沢です。

(冷たい水の中にいるのかな?)

いましたよ。元気なブチサンショウウオです。春に比べると、体のブチの模様が濃くはっきりと見えるようになりました。

標高1055メートルの背振山をはじめ、高い山々が連なる脊振山地の天気はめまぐるしく変わります。

雪が降ったかと思うと、今度は青空が広がり、ブナの林に太陽の光が差し込んできました。

まっさらな雪の上に、動物の足跡を発見しました。

(なんの足跡かな?)

これはニホンイノシシの足跡です。

そしてこちらは、キュウシュウノウサギの足跡。

二つ揃っているのが、後足です。後足で蹴って前進しています。

(冬の背振には、どんな動物がいるの?)

まず、キュウシュウノウサギがいますね。ホンドタヌキ、ホンドギツネ、それからニホンイノシシ、アナグマですね。だいたい5種類ぐらいの哺乳類がいるのですが、ほとんど夜行性で夜活動しています。

キツネは肉食だからですね、ウサギを追っかけていたり、で、ウサギをえさとしていたりですね。それからイノシシはですね、雑食だからミミズをとったり、他のイモリを食べたり、いろんなそういう生活をしています。

脊振山地の雪の尾根を歩きます。

気温は氷点下。それでも太陽に温められて、雪や氷が少しずつ溶け始めていました。

また、動物の足跡を見つけました。

この足跡にはツメがあります。まっすぐに歩いているキツネの足跡。獲物を探していたのでしょうか。

こちらは足を揃えるようにして進んでいます。

(これは何だ?)

これはホンドタヌキの足跡のようです。少し急ぎ足に見えます。

ここには大きな足跡。ニホンイノシシです。深い雪の上を上手に歩いています。
小さな足跡は鳥です。こうして雪の上の動物の足跡を追跡しながら観察することを「アニマルトラッキング」といいます。
足跡がずっと続いているので、時間をかけてずっと追っていくと、巣穴に行ったりですね、足跡のそばにフンがあったり尿をしたりして、自分のテリトリーを示す動物もおるしですね。
それから逆にキツネがウサギを追っかけているというか、そういうことも、足跡の様子から分かってくるので、そういうところに興味があるとですね、非常に楽しい冬の自然観察につながっていくと思います。
夕暮れです。昼間息を潜めていた動物達が、そろそろ動き始めます。
(ずーっと大切にしたいね！)